

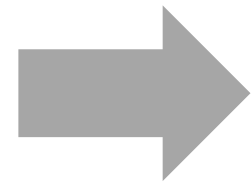
高経年化対策 – 運転終了後の施設の解体期間における健全性の確保 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.190

原子力発電所の解体は何十年もかかるが、高経年化対策では60年の運転期間しか想定していない。運転終了後の解体期間の安全性はどのように確保していくのか。



第17回ワーキング
(2020.10.21)
で議論

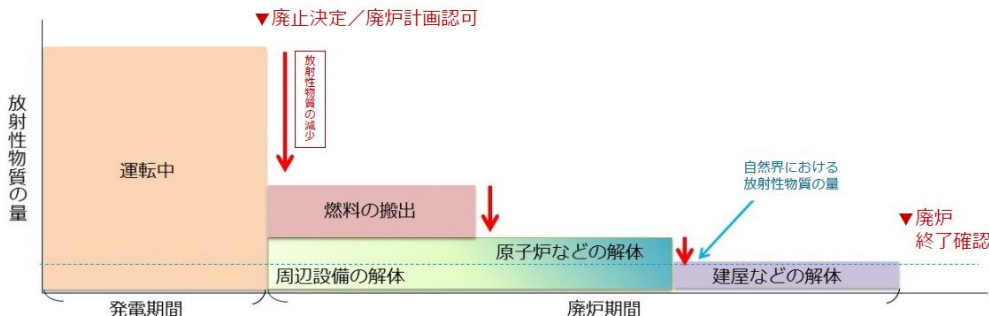
ワーキングチーム検証結果

原子力発電所の運転終了後は、廃止措置の段階に応じて、**使用済燃料プールの冷却など必要な機能を有する設備について保全の計画を定め、適切に維持していくことを確認。**

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○原子力発電所の運転段階と廃止措置段階の違い

- 廃止措置段階では、**廃止措置の進捗に伴い放射性物質の総量が減少**していく。これに伴い、**事故時のリスクも減少**していく。
- 廃止措置のプロセスの進捗に伴い、周辺設備や原子炉の解体により放射性物質の量は段階的に低減。最終的な放射性物質の量は自然界における量と同化



廃止措置の進捗に伴う放射性物質の減少イメージ

資源エネルギー庁HP「原子力発電所の「廃炉」、決まったらどんなことをするの?」より抜粋

○廃止措置期間中の施設の維持

- 東海第二発電所の廃止措置においては、廃止措置実施方針に基づき、周辺公衆及び放射線業務従事者の被ばく低減を目的として、廃止措置期間中の各段階に応じて必要な安全措置を図っていく。
- 廃止措置期間中も維持管理を行う発電所の施設・設備については、**各廃止措置段階で必要な期間中にわたり、必要な機能及び性能を維持管理**する。
- この方針に基づき廃止措置を実施することで、**廃止措置期間中にわたり発電所の安全性を適切に確保**する。

東海第二発電所で廃止措置中も維持管理を行う主な対象施設

発電所の施設、設備	具体的な設備例	廃止措置中に維持管理する機能・性能
放射性物質を内包する配管や設備を収納する建屋	原子炉圧力容器 原子炉建屋	放射性物質の漏えい防止 放射線の遮へい
使用済燃料貯蔵施設 核燃料物質取扱設備	使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系 燃料取扱設備	使用済燃料の臨界防止・遮へい 使用済燃料の浄化・冷却 使用済燃料の落下防止
放射線管理施設	各種放射線モニタ モニタリングポスト	所内の放射線監視及び放射線管理 環境への放射性物質の放出管理
非常用電源設備	非常用ディーゼル発電機	使用済燃料貯蔵施設等への電源供給